

令和2年（2020年）12月4日
(公財)長野県中小企業振興センター
マーケティング支援センター
TEL:026（227）5013
FAX:026（228）2867
E-mail : market@icon-nagano.or.jp

登録受注企業経営動向調査結果

令和2年（2020年）10月分

(公財)長野県中小企業振興センター

《 目 次 》

	ページ
I 調査の概要	1
II 調査結果の要約	2
III 経営動向調査集計結果	
1 受注量	5
2 受注単価	5
3 収益性	5
4 操業度	6
5 取引条件	6
6 経営上の問題点	7
7 今後の対応策	7
8 回答企業の構成	8
【資料】	
登録受注企業経営動向調査票	9

I 調査の概要

1 目的

長野県内の下請中小企業の経営動向を把握し、事業を推進する上での資料とするとともに、全体の動向について情報提供を行います。

2 対象

当センター登録受注企業より、任意に抽出した200企業を継続的に対象としています。

3 時期

令和2年10月末現在の状況について、11月に調査を行っています。

4 方法

往復ハガキを使用したアンケートにより調査を行っています。

5 内容

調査内容については、【資料】登録受注企業経営動向調査票（9ページ）をご覧ください。

なお、現在の受注量及び収益性については、3か月前と比べた状況（増加・減少）（向上・悪化）を質問しています。

調査結果については、DI方式を用いて、項目毎に動向を判断しています。

※ DI (*Diffusion Index*): 「増加」、「上昇」、「向上」とする企業の割合から、「減少」、「低下」、「悪化」とする企業の割合を引いた値

6 回収の状況

対象企業数 200社

回答企業数 178社

回答率 89.0%

7 回答した企業の構成

Ⅲの8（8ページ）のとおりです。

8 調査の公表

本調査の結果は、当センターHPに過去3回分と併せての掲載後、長野県発表資料（プレスリリース）に掲載されます。

https://www.icon-nagano.or.jp/cms/modules/contents/page/keiei_doko.html

登録受注企業経営動向調査について

当センターでは、製造業（工業系）の事業者で、当センターの受発注のあっ旋・紹介を受けたいとする者で、申し込みされた事業者の登録を行い、受発注のあっ旋・紹介、企業情報の提供、苦情・紛争の相談、その他展示会等に関する情報提供などを行っています。

2020年10月末現在、発注登録企業1,300社、受注登録企業1,400社となっています。

受注登録企業を対象とし、この調査を上記1の目的で、54年以降四半期ごとに実施をしています。

Ⅱ 調査結果の要約 令和2年(2020年)10月分

【概況】

■ 受注量D I・収益性D Iともに、前回調査7月分に比べ大幅に上昇したものの、依然としてマイナス状態となっている

- ① 受注量のD Iは▲11.8となり、前回調査(▲63.8)から52.0ポイント上昇している。内訳は、「増加した」とする企業の割合が前回調査より20.4ポイント上昇し、「減少した」とする企業の割合は、31.6ポイント低下している。
- ② 3か月後の受注量の見通しのD Iは、▲7.3となり、前回調査(▲36.9)より29.6ポイント上昇している。
- ③ 材料費込みの受注単価D Iは▲1.2となり、前回調査(▲4.7)より3.5ポイント上昇し、加工賃のみの受注単価D Iは▲9.5となり、前回調査(▲7.8)より1.7ポイント低下している。
- ④ 収益性のD Iは▲21.9となり、前回調査(▲60.5)より38.6ポイント上昇している。
- ⑤ 操業度は、3期連続して「80%~65%超」とする企業の割合が最も多く40.0%である。前回調査と比べると、「100%~80%超」とする企業の割合が12.1ポイント上昇し、「80%~65%超」とする企業の割合が6.7ポイント低下している。また、今回「65%~50%超」とする企業が15.7%となり、前回調査と比べ6.3ポイント「50%以下」とする企業が11.2%となり、3.6ポイントそれぞれ低下している。
- ⑥ 経営上の問題点では、「受注量の減少」とする企業の割合が75.8%と最も多く、前回調査と比べ8.8ポイント減少している。次いで、「機械設備の陳腐化」が6.7%、「コストダウン・高品質化」「求人難」が共に2.8%の順となっている。
- ⑦ 今後の対応策では、「取引先の拡大」とする企業の割合が42.1%と最も多く、前回調査より2.0ポイント上昇している。次いで「人材確保・養成」18.0%、「自動化・省力化によるコストダウン」・「品質向上等による高付加価値化」が共に7.3%の順となっている。



1 受注量：DIは ▲11.8（3か月後の見通し▲7.3）

受注量DIは▲11.8となり、前回調査より52.0ポイント上昇している。

	今回（10月）	前回（7月）
増加	27.5%	7.1%
横ばい	33.2%	22.0%
減少	39.3%	70.9%
DI	▲11.8	▲63.8

3か月後の受注量見通しDIは▲7.3となり、前回の予測より29.6ポイント上昇している。

	今回予測（1月見通し）	前回予測（10月見通し）
増加	16.9%	9.3%
横ばい	58.9%	44.5%
減少	24.2%	46.2%
DI	▲7.3	▲36.9

2 受注単価：DIは▲1.2（材料費込み）、▲9.5（加工費のみ）

（1）材料費込みの受注単価

受注単価DI（材料費込み）は、▲1.2となり、前回調査との比較では、3.5ポイント上昇している。

	今回（10月）	前回（7月）
値上りした	4.1%	2.3%
変わらない	90.6%	90.7%
引下げられた	5.3%	7.0%
DI	▲1.2	▲4.7

（2）加工費のみの受注単価

受注単価DI（加工費のみ）は▲9.5となり、前回調査との比較では、1.7ポイント低下している。

	今回（10月）	前回（7月）
値上りした	0.6%	0.6%
変わらない	89.3%	91.0%
引下げられた	10.1%	8.4%
DI	▲9.5	▲7.8

3 収益性：DIは ▲21.9

収益性DIは▲21.9となり、前回調査との比較では38.6ポイント上昇している。

	今回（10月）	前回（7月）
向上した	19.1%	4.9%
変わらない	39.9%	29.7%
悪化した	41.0%	65.4%
DI	▲21.9	▲60.5

4 操業度

操業度「80%～65%超」とする企業の割合が40.0%と最も多い。前回調査と比べると、「100%～80%超」の企業の割合が12.1ポイント上昇し、「80%～65%超」の企業の割合は6.7ポイント低下している。

また、今回「65%～50%超」とする企業が15.7%となり6.3ポイント、「50%以下」とする企業が11.2%となり、3.6ポイントそれぞれ減少している。

	今回(10月)	前回(7月)
100%超	5.6%	1.1%
100%～80%超	27.5%	15.4%
80%～65%超	40.0%	46.7%
65%～50%超	15.7%	22.0%
50%以下	11.2%	14.8%

5 取引条件

親企業の下請代金の支払方法は、「現金と手形の併用」とする企業の割合が61.8%と最も多く、次いで「全額現金」「全額手形」の順となっている。

また、手形のサイトは、「120日以内」とする企業の割合が89.5%、「121日以上」とする企業の割合が、10.5%となっている。

6 経営上の問題点

「受注量の減少」とする企業の割合が、75.8%と最も多く、前回調査より8.8ポイント減少している。次いで、「機械設備の陳腐化」が6.7%、「コストダウン・高品質化」「求人難」が、共に2.8%の順となっている。

	今回(10月)	前回(7月)
受注量の減少	75.8%	84.6%
機械設備の陳腐化	6.7%	2.2%
コストダウン・高品質化	2.8%	2.7%
求人難	2.8%	1.1%
その他	11.9%	9.4%

7 今後の対応策

「取引先の拡大」とする企業の割合が42.1%と最も多く、前回調査より2.0ポイント増加している。次いで、「人材確保・養成」が18.0%の順となっている。

	今回(10月)	前回(7月)
取引先の拡大	42.1%	40.1%
人材確保・養成	18.0%	14.8%
品質向上等による高付加価値化	7.3%	7.1%
自動化・省力化によるコストダウン	7.3%	6.0%
多種少量生産への対応	3.4%	2.7%
自社製品への取組強化	2.2%	1.6%
その他	19.7%	27.7%

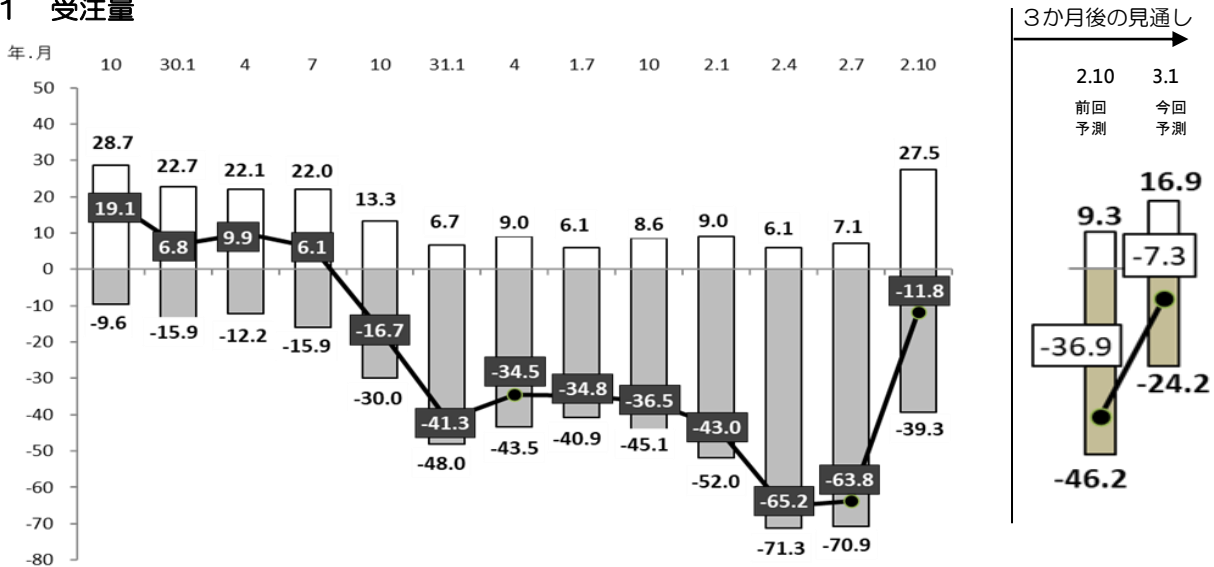
Ⅲ 経営動向調査集計結果（令和2年度・第3回分）

（注）棒グラフのプラス側は好転（増加、上昇）の企業の割合、マイナス側は悪化（減少、低下）の企業の割合です。

折れ線グラフ（D1）は好転（増加、上昇）の企業の割合から悪化（減少、低下）の企業の割合を引いたものです。

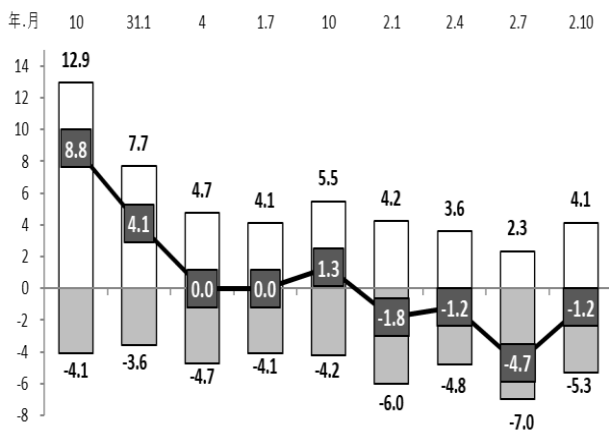
4～8の構成比については、項目毎に少数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

1 受注量

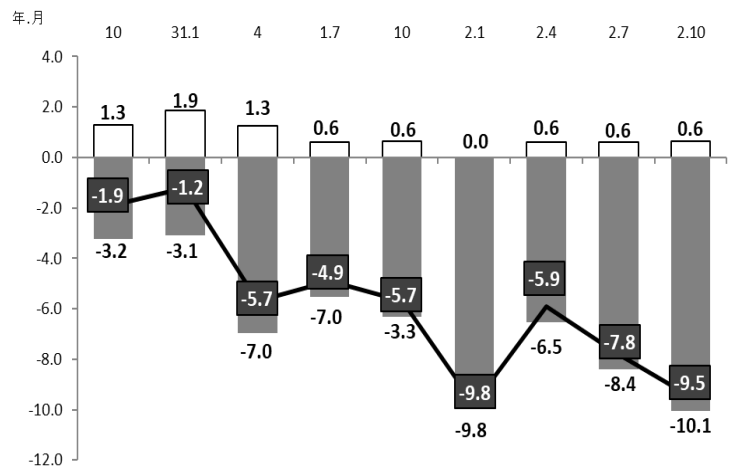


2 受注単価

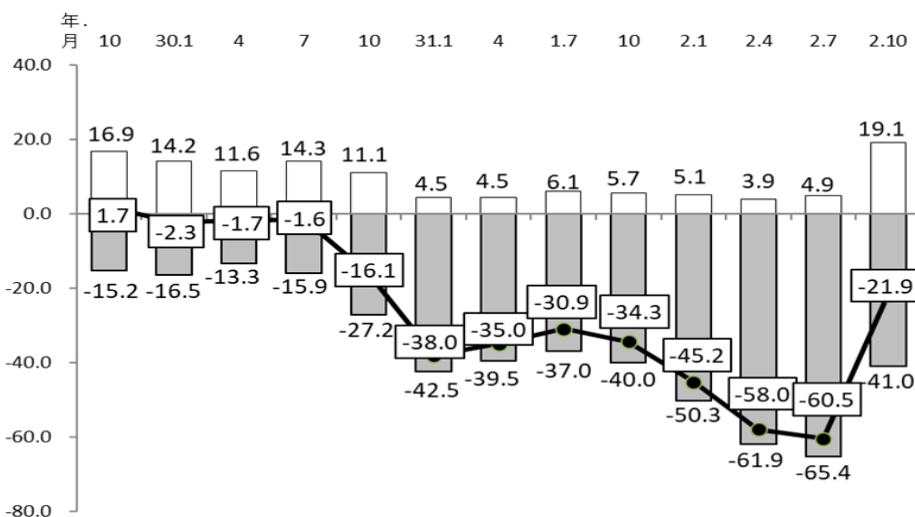
(1) 材料費込みの受注単価



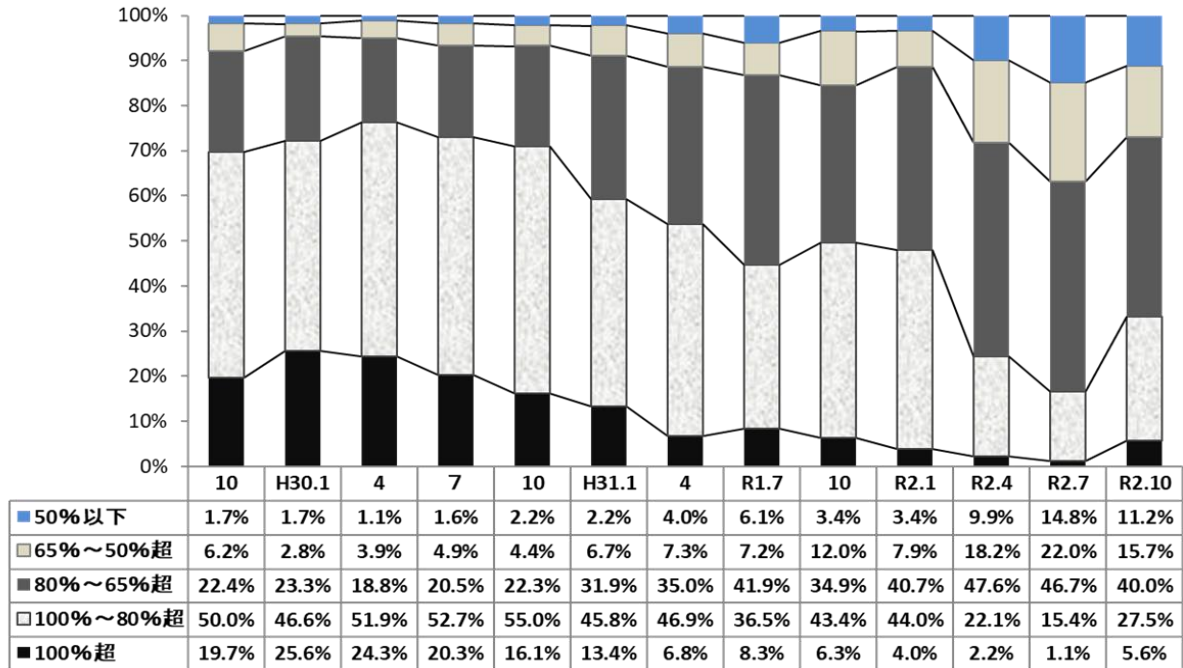
(2) 加工費のみの受注単価



3 収益性

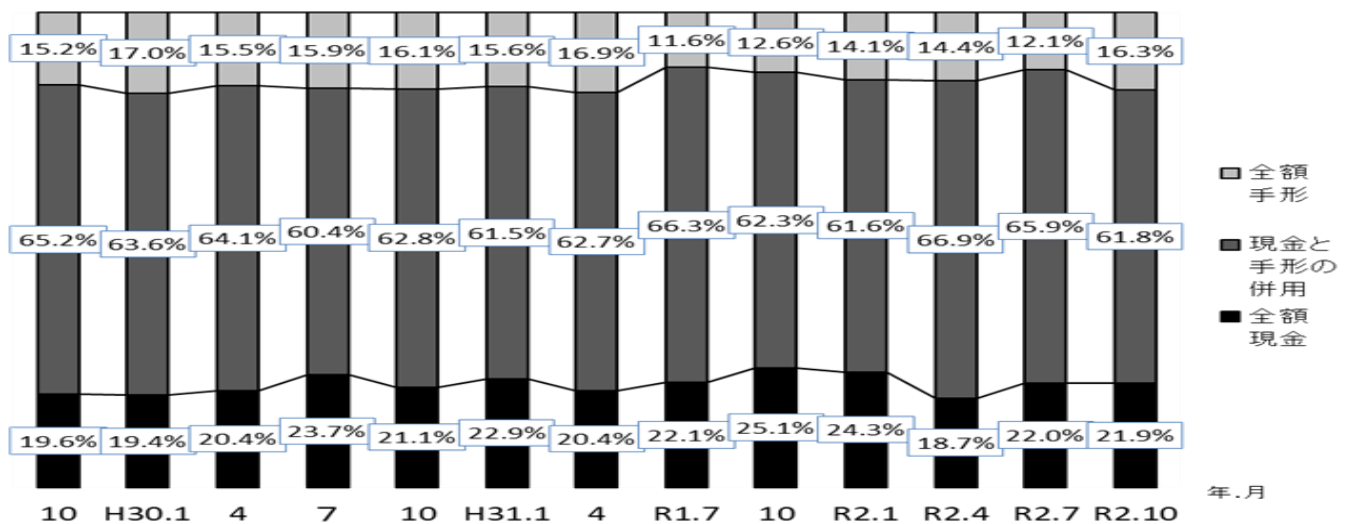


4 操業度

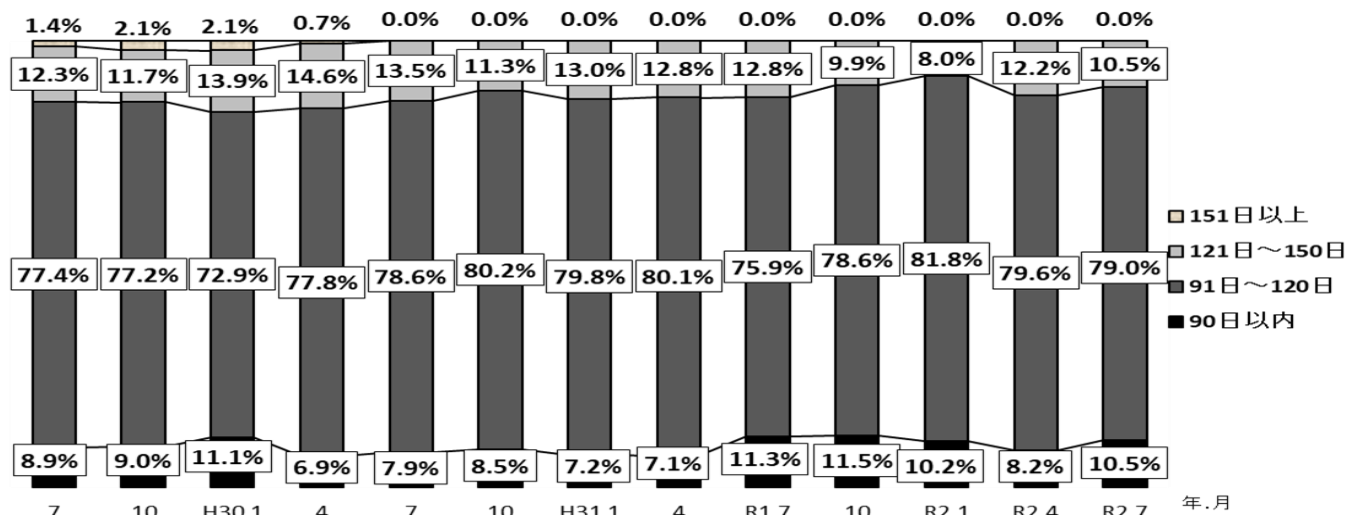


5 取引条件

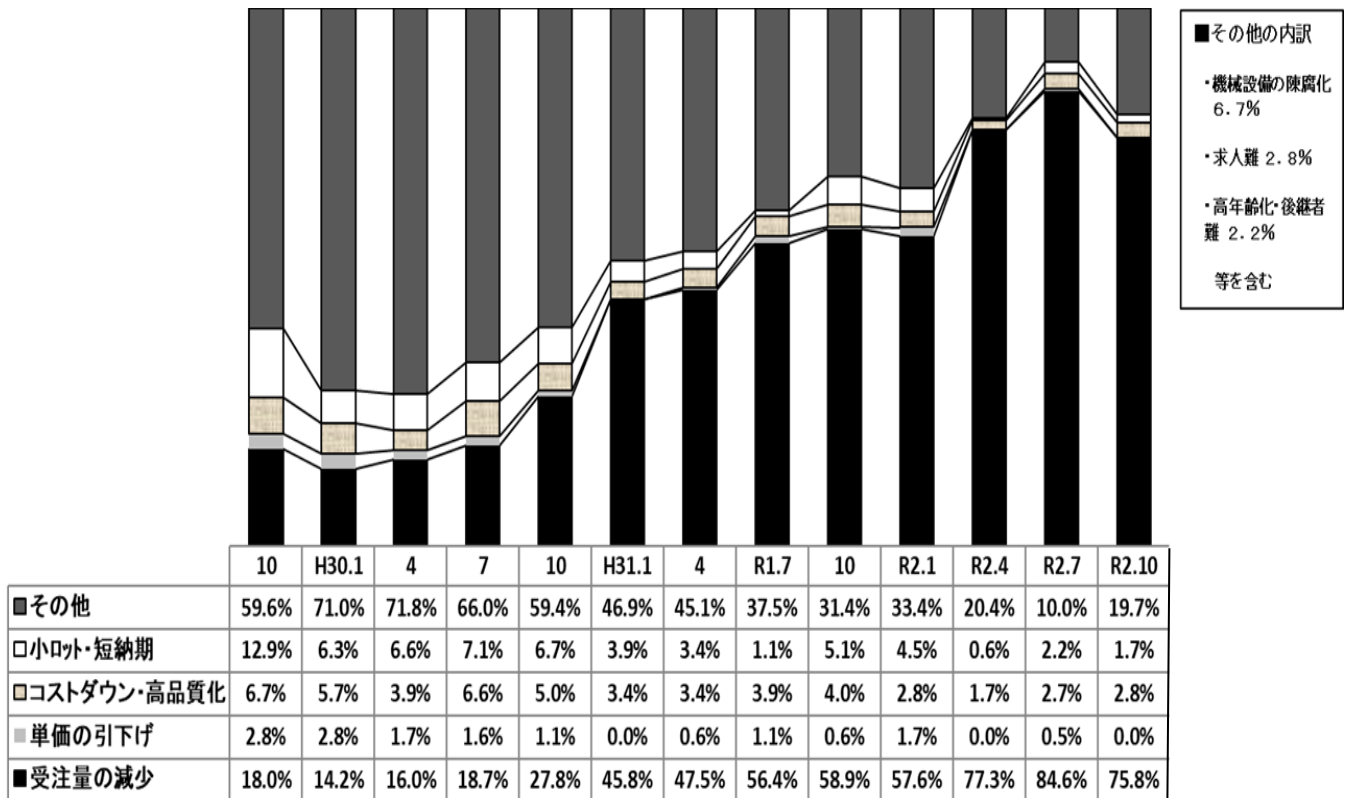
(1) 親企業の下請代金の支払方法



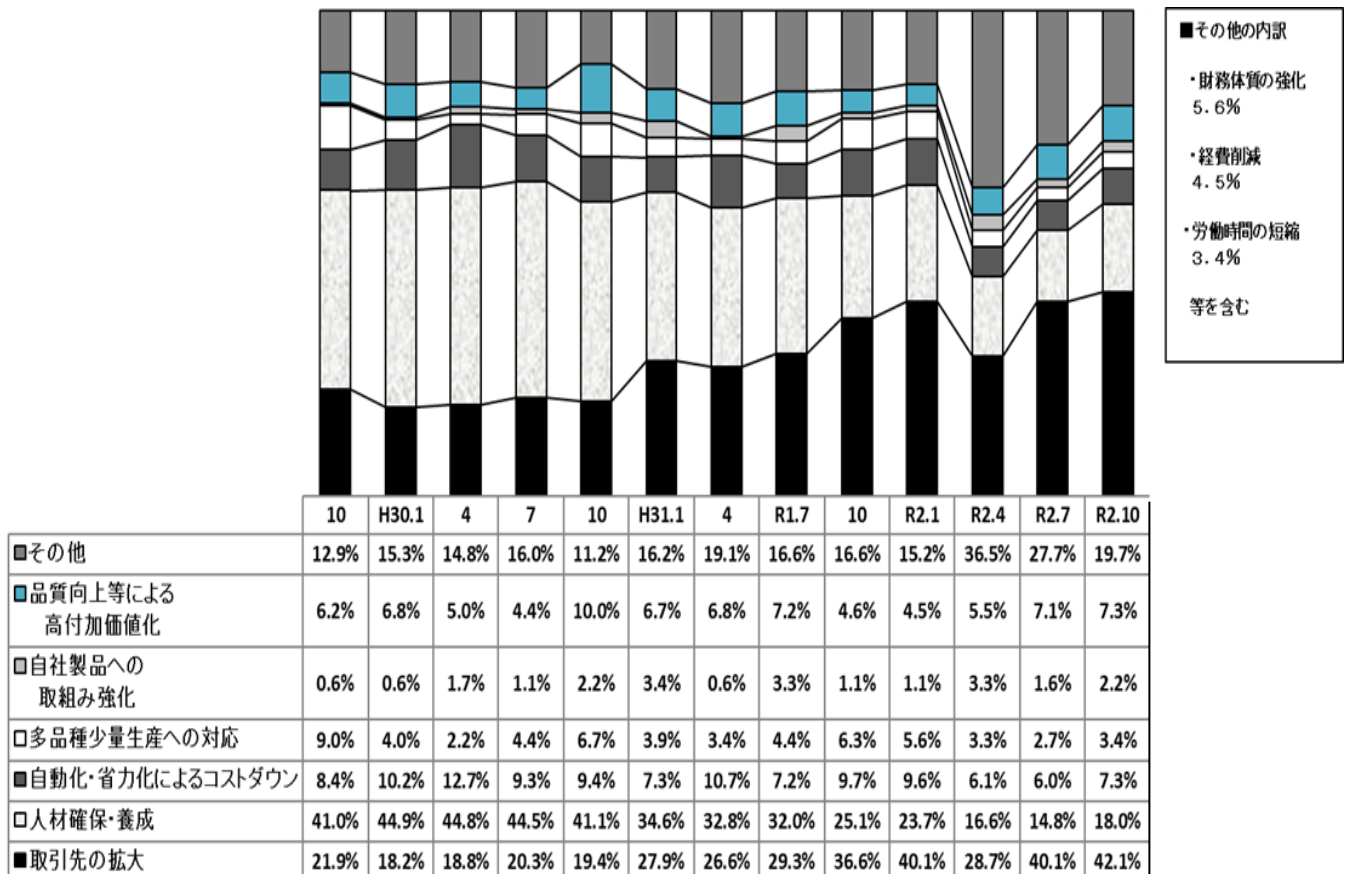
(2) 手形サイト



6 経営上の問題点

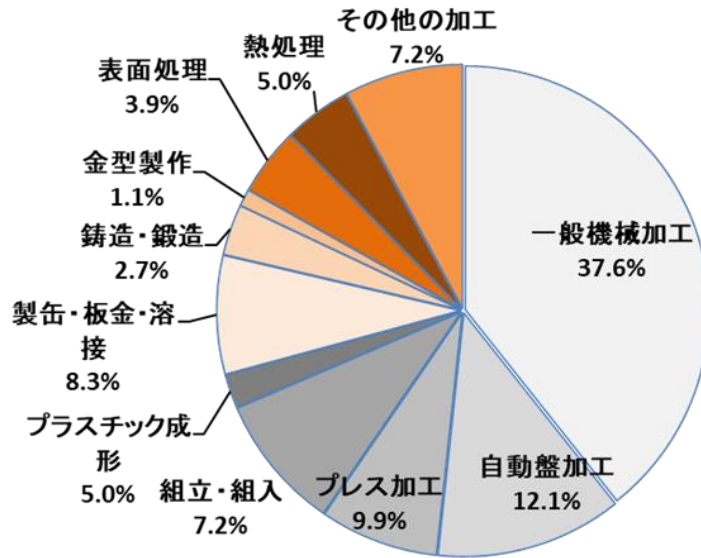


7 今後の対応策

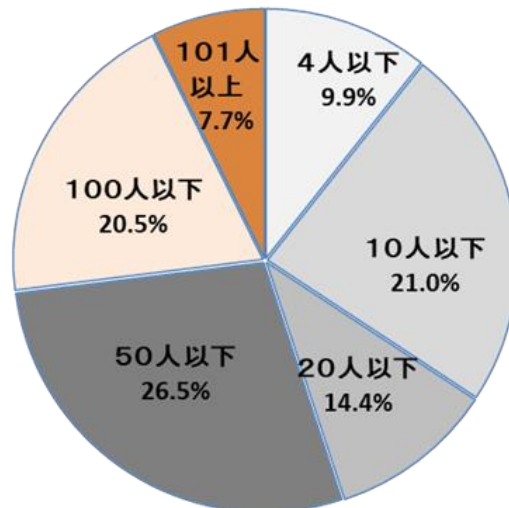


8 回答企業の構成

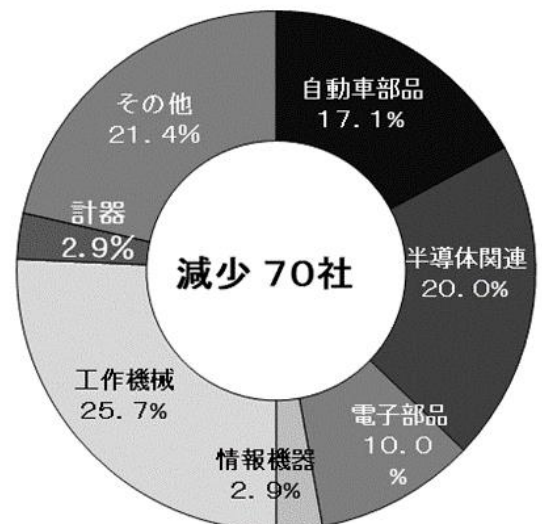
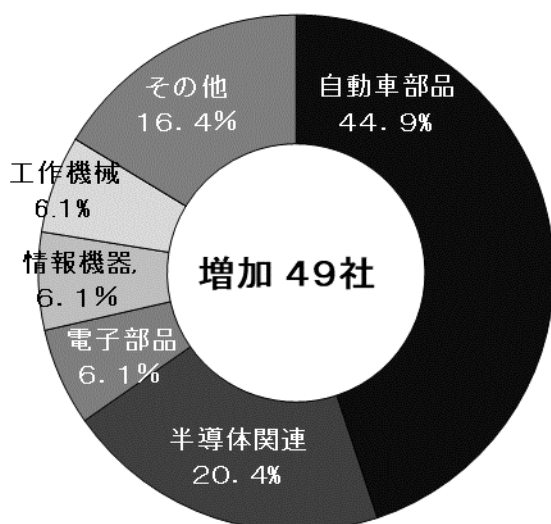
(1) 加工別の構成



(2) 従業員規模別の構成



(3) 受注量に変化があった製品



登録受注企業経営動向調査票 2020年度・第3回

(令和2年10月末現在)

◎記入上の御注意

下記の設問について、各々1つだけ○印を付けて下さい。

※印の設問については「受注依存度の最も高い取引先企業を対象」として御記入下さい。

	現在の受注量は3ヶ月前に比べ	a.増 加	b.横ばい	c.減 少
問1	受注量の変化のあった(上の設問で「a.増加」か「c.減少」を選んだ)関連業種は何ですか。 1つだけ○印をつけてください	a.自動車部品 d.情報機器 g.時計	b.半導体関連 e.工作機械 h.その他()	c.電子部品 f.計器
問2	今後の受注量の見通しは(3ヶ月後)	a.増 加	b.横ばい	c.減 少
※問3	受注単価は、3ヶ月前に比べ			
	1.材料費込の場合	a.値上りした	b.変わらない	c.引下げられた
	2.加工費のみの場合	a.値上りした	b.変わらない	c.引下げられた
問4	現在の操業度は生産能力に比べ	a.100%超 d.65~50%超	b.100~80%超 e.50%以下()	c.80~65%超
問5	収益性は3ヶ月前に比べ	a.向 上	b.変わらない	c.悪 化
※問6	親企業の下請代金の支払方法	a.全額現金	b.現金と手形の併用	c.全額手形
※問7	前問でb、cと回答した場合その手形サイトは	a.90日以内 d.151~180日	b.91~120日 e.180日以上	c.121~150日
問8	企業経営上、現在最も問題となっていることは何ですか。 1つだけ○印をつけて下さい。	a.受注量の減少 c.求人難 e.小ロット・短納期 g.人件費の上昇 i.経営者の高年齢又は後継者難 j.機械設備の棟腐化 k.資金繰り	b.単価の引き下げ d.長時間労働 f.コストダウン・高品質化 h.経費の上昇(材料の高騰含む) l.その他()	
問9	今後の経営の方向について貴社としてどのような対応が必要とお考えですか。 重要とおもわれるもの1つだけ○印をつけて下さい。	a.人材確保・養成 c.労働時間の短縮 e.福利厚生制度・施設の充実 f.多品種少量生産への対応 g.品質向上等による高付価値化 h.工程管理・納期管理の徹底 i.財務体質の強化 k.経費節減	b.取引先の拡大 d.自動化・省力化によるコスト削減 j.自社製品への取組み強化 l.その他()	

ご協力ありがとうございました。

貴社の従業員数	イ.1~4人 ニ.21~50人	ロ.5~10人 ホ.51~100人	ハ.11~20人 ヘ.101人以上
最もウェイトの高い加工	a.一般機械加工 d.製缶・板金・溶接 g.表面処理 j.プラスチック成形	b.自動盤加工 e.金型製作 h.熱処理 k.縫製	c.プレス加工 f.組立・組入 i.鋳造・鍛造 l.その他の加工